

令和5年度全国学力・学習状況調査結果の概要

■令和5年4月18日実施(小・中・義務教育学校全校実施)
 ■実施教科 小学校等 … 国語 算数
 中学校等 … 国語 数学 英語

1 教科に関する調査の状況について

小学校等 第6学年

教科	国語	算数
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○「情報の扱い方に関する事項」、「書くこと」、「読むこと」の内容で全国の平均正答率を上回った。特に「書くこと」の内容の平均正答率については、昨年度と比較して改善傾向にある。また、記述式の問題においても正答率が全国平均を上回った。 ○「情報の扱い方に関する事項」の内容において、原因と結果など情報と情報との関係について理解する力が定着している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかをみる問題において茨城県の平均正答率を上回った。 ○高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題において、全国の平均正答率を上回った。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」の内容における平均正答率が全国の正答率を下回った。また、選択式の問題においても正答率が全国平均を下回った。 ●日常よく使われる敬語を理解することや、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えること、目的や意図に応じ話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「数と計算、図形、変化と関係」の領域において、正答率が全国より大きく落ち込んでいる問題がある。また、評価の観点においては、「知識・技能」の正答率が全国と比較して落ち込みが大きい。 ●長文による問題や記述による回答を求める問題、求め方と答えを式や言葉を使って書く問題、正答が複数ある選択問題など、思考力・表現力を問われる問題において、課題が見られた。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ◎地域の方々に学区内の歴史についてインタビューするといった、具体的な目的や相手を想定した場面を設定し、相手と自分との関係を意識させながら尊敬語や謙譲語などの役割や必要性を考え、実践できる学習活動を充実させる。 ◎聞きたいことについて予め質問事項を決めておくだけでなく、「さらに詳しく聞く」、「自分の理解が正しいかどうかを相手に確かめる」等、質問のグッドモデルを示す。また、話し手の話の柱部分や聞きたいことの中心を意識してメモするといった活動を取り入れ、実際に校外学習等で実践できる場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎計算技能の定着にあたっては、「なぜこうなるのか」という計算の仕組みとその理由について十分に納得した上で反復練習に取り組む。また、情報の整理の仕方や抜けない記述方法等を確認する。 ◎「本当にそれで合っている？」等、答えを吟味する活動を取り入れることで、与えられた条件と結果を比較して考える力を育てるとともに、児童の考えを聞き、「その説明どおりだと、こうなるのかな？」等、教師が意図的に間違えることで、説明に必要な条件が何か思考する力を育てる。

中学校等 第3学年

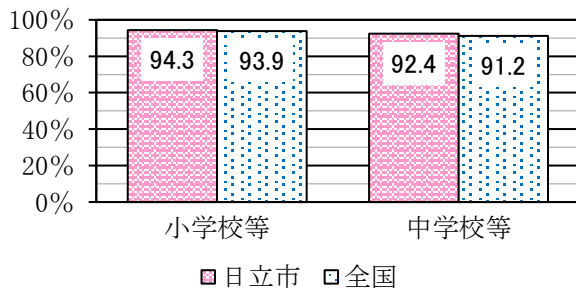
教科	国語	数学	英語
成果	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」以外の内容で全国の平均正答率を上回った。また、「選択式」の問題の正答率も、全国の平均正答率を上回っている。 ○「我が国の言語文化に関する事項」の内容において、古典における歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む力が定着している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○与えられた条件のもと、決められた数を代入した時の結果を求める問題において、多くの生徒が問題場面における考察の対象を明確に捉えることができた。 ○数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる問題において、多くの生徒が正答できた。 ○ほぼすべての問題において、無答率が全国より低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○問題形式では、「記述式」の問題の平均正答率が全国の平均正答率を上回った。「書くこと」の領域における無答率は全国より低い。 ○社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる問題における平均正答率が、全国、県の平均正答率を上回った。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●「書くこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」の内容における平均正答率が、全国の平均正答率を下回った。 ●読み手の立場に立って叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることや、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと、文脈に即して漢字を正しく書くことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「図形」「データの活用」の領域で落ち込みが大きい。 ●自然数や反比例、累積度数、空間における平面決定の意味理解など、基礎的・基本的な知識・技能に課題がある。 ●三角形の合同を基にして、ある事柄が成り立つことを証明することや長文を読み解き筋道を立てて、必要な事柄を読み取ることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「聞くこと」の領域において、平均正答率の全国、県との差が大きい。情報を正確に聞き取ることや必要な情報を聞き取ること、短い説明の要点を捉えることに課題がある。 ●「書くこと」の平均正答率が全国と同様に低い。文法事項や言語の働きを理解し正確に書くことやまとまりのある文章を書くことに課題がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ◎書いた文章について、読み手の立場で推敲するとともに、推敲する前後の文章を比較し、書き換えた理由や意図を説明し、伝えようとするのが十分に表現されているかを確かめる活動を充実させる。 ◎漢字について、単語レベルでの習熟を図るだけでなく、既習の漢字を文中で適切に書く必然性のある短文作りや意見文の作成等の書く活動を重視する。また、文脈に即して漢字を書く活動を意図的・計画的に設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「0」の発見と関連付けて自然数を指導することにより、「ない」ことを数で表すことの有用性や十進位取り記数法の有用性を実感させるなど、学ぶ意義や価値について十分に気付ける場を確保する。 ◎平行な2本の材木や垂直な2本の材木には壁や屋根を載せられるが、ねじれの位置にある材木には壁や屋根を載せられないなど、実生活と関連付けて数学を学ぶことができるように、単元構成や授業づくりを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「聞くこと」を通して内容を理解する活動を日常的に繰り返し、語と語の連結による音変化も含め、自然な口調で話される英語に数多く触れさせて、自ら発音できるようにする機会を意図的に設定する。 ◎「書くこと」について、適切な中間指導やフィードバックを行ったり、書いた英文を読み返して正しく伝わる英文かどうかを確かめ誤りに気付いたりして、修正を加えながら正確さを高めていく活動を短時間で繰り返し行う。

2 質問紙調査の状況について

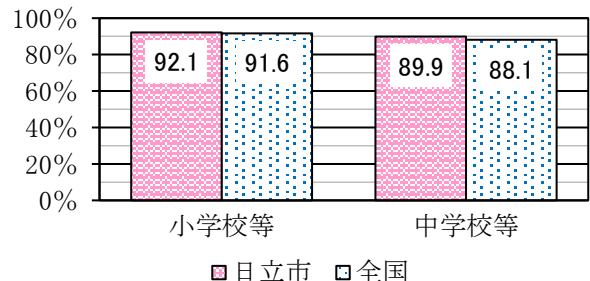
生活習慣、規範意識

朝食を毎日食べている児童生徒の割合及び人が困っているときは進んで助けている児童生徒の割合は、全国の割合よりも高い。

朝食を毎日食べていますか。(児童生徒質問紙)



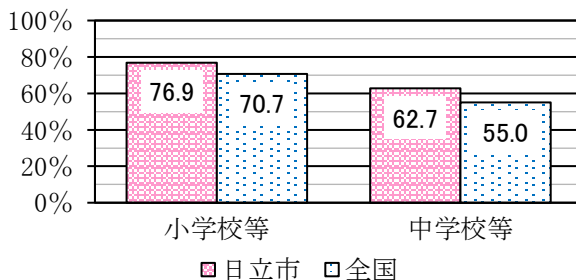
人が困っているときは、進んで助けていますか。(児童生徒質問紙)



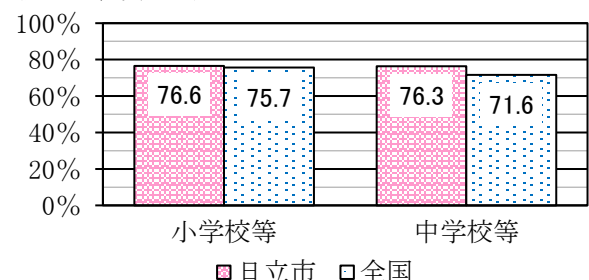
学習・生活への取組

家で自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒及び学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる児童生徒の割合は、全国の割合よりも高い。

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(児童生徒質問紙)



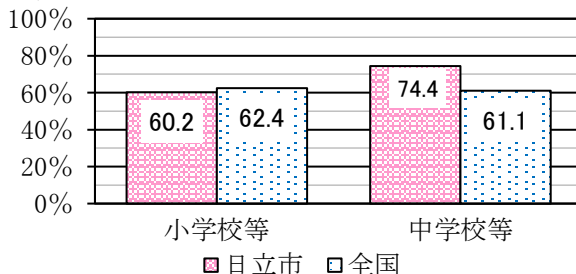
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。(児童生徒質問紙)



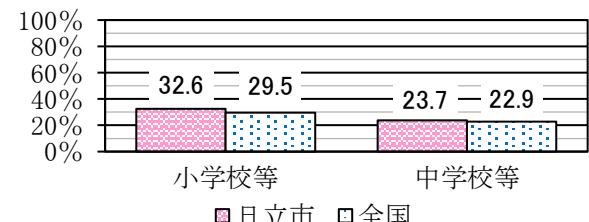
I C Tの活用

中学校等においては授業でI C T機器を活用して学習したと考える生徒の割合は、全国の割合よりも高い。また、家庭学習の課題としてI C T機器を英語学習に使用している児童生徒の割合は、全国の割合よりも高い。

前学年までに受けた授業で、P C・タブレットなどのI C T機器を、どの程度使用しましたか。(児童生徒質問紙) ※週3回以上と回答した児童生徒



家庭学習の課題(宿題)として、どの程度P C・タブレットなどのI C T機器を使用して、英語の音声の聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか。(児童生徒質問紙) ※週1回程度以上と回答した児童生徒



学力向上のために

- 質問と正答率との関係 朝食を食べている児童生徒及び家で自分で計画を立てて勉強をしている児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。
- 課題 情報活用能力を「学習の基盤となる資質・能力」と位置付け、その育成を図るとともに、I C T機器を効果的に活用して授業を展開する。
- 改善のポイント 「誰にでも出番のある全員参加型の授業」により個別最適な学びの実現を図るとともに、これまでの教育実践とI C Tのベストミックスを図り、I C Tを活用した学習を充実させる。